

●論壇

東北における交通問題

一 力 一 夫*

Traffic Problems in the Tohoku District

Kazuo ICHIRIKI*

東北地方は南北に長く、中央に奥羽山脈、その東に北上山系、西に出羽山系がそれぞれ南北に連なり、北上山系は海岸まで迫っている。奥羽山脈の東には北上川、阿武隈川が南北に流れて仙台湾に注ぎ、西には最上川、雄物川、米代川、岩木川がそれぞれ日本海に注いでいる。こうした天然の地形は古来、南北間の交流交通をうながしはしたが、東西間の交流、すなわち太平洋岸と日本海岸の交通は絶無といってもよい状態だった。これは今日でもほとんど改善されていない。こうした自然、天然の理由に加えて、古来千数百年に及ぶ歴史的理由がそれに拍車をかけてきた。今でこそ「東北6県」とか、「東北は一体」とか言われているが、つい最近まで東北は一体ではなかった。東西の交流はなく、太平洋岸の福島、宮城、岩手、青森と、日本海岸の山形、秋田とは全く無縁の土地だったのである。前者は東国、後者は北国と言われてきた。

大和、山城地方に樹立された中央集権政府は、隋や唐から渡来した諸制度や諸文化を未消化に移入してその模倣に乗り出した。中華思想もその一つで、奈良や京都から東は東夷、西は西戎、北は北狄、南は南蛮。いずれも未開野蛮の地と称した。東は近江から海岸沿いに東海道、山沿いに東山道が開け、両者は関八州で合流して東に進み、北関東から浜通りは勿来の関、山道は白河の関を経てみちのくに入り、仙台で合流して一路北上、陸の奥、すなわち青森に達した。このラインはあくまで東方、東の国であった。一方、北国は琵琶湖の北端から若狭、越前、越後を経て出羽に達した。両者は当初陸奥一國で総称されていたが、やがて出羽が分国され、以来明治元年まで陸奥、出羽両國が併存した。だから奥羽地方といえば現在の東北6県を指すが、東北地方といえば、広く東国と北国両地方の総称だから、現在でいえば北陸、関東、東北全地域の総称になってしまう。だから福島、仙台、盛岡、青森は東国であり、山形、秋田、新潟、富山、金沢などは北国である。しかも陸奥は現在の4県にも及ぶ広大な国であったが、長い間荒っぽく奥州一國のままですえおかれた。それが岩代、磐城、陸前、陸中、陸奥の5國に、さらに、出羽が羽前、羽後の2國に分けられたのは、実に明治元年になってからである。

このころから、やっと東北地方は奥羽地方と同義語として使われるようになり、東北7州が一体として考えられるようになりだしたのである。南北にのみ連なる地形と、このような歴史的現実を考えれば、今日の東北地方の交通が道路も鉄道も南北にのみ連なり、東西が依然として不便をかこっているのは、むしろ当然なのである。古来、青森、盛岡は仙台を経て陸路江戸・東京に連なり、一方、秋田、山形、新潟は海路と琵琶湖経由で京、大阪に連なり、両者にはなんらの交流はなく、また、その必要もなかったのである。奥羽山脈は2,000m以下の、それほど高峻な山脈ではないが、実際には越すに越されぬ大障壁だったのである。

明治維新から百余年。南北に走る高速道路はすでに岩手山麓に達し、海岸線沿いの道路もほぼ完成した。しかし、東西間は依然として夜間は全く走らない数本のローカル線と、雪の多い冬場には時々ストップする数条の国道があるのみである。こうした背景のもとに、奥羽山脈をブチ抜いて仙台、山形を1時間半以内で結ぶ笹谷トンネルが今年の4月15日に開通した。やっと東北が本当に一体となるべき道が開けたのである。やはり文明開化は風に乗っては来ないのである。

* 河北新報社会長
Chairman, Kahokushimpo Press
原稿受理 昭和56年2月24日